

「道の駅」の潜在的な防災機能と役割の分析－南海トラフを想定した紀伊半島の事例－

1. 研究背景・目的

道の駅は、1993年に登録制度が創設されて以来、全国に整備が進み、創設当初の103駅から2025年12月時点では1,231駅まで増加している。道の駅には、「休憩機能」「地域連携機能」「情報発信機能」という基本機能があり、近年では「道の駅第3ステージ」において、地方創生や防災拠点としての役割が重視されている。本研究では、可住地面積当たりの道の駅数が全国で最も多い和歌山県に着目し、県内36駅を対象として調査を行った。和歌山県および道の駅を設置する市町村へのアンケート調査を通じて、防災機能の整備状況や課題を把握し、南海トラフ地震発生時を想定した道の駅の防災機能と今後の整備の方向性を明らかにすることを目的とする。

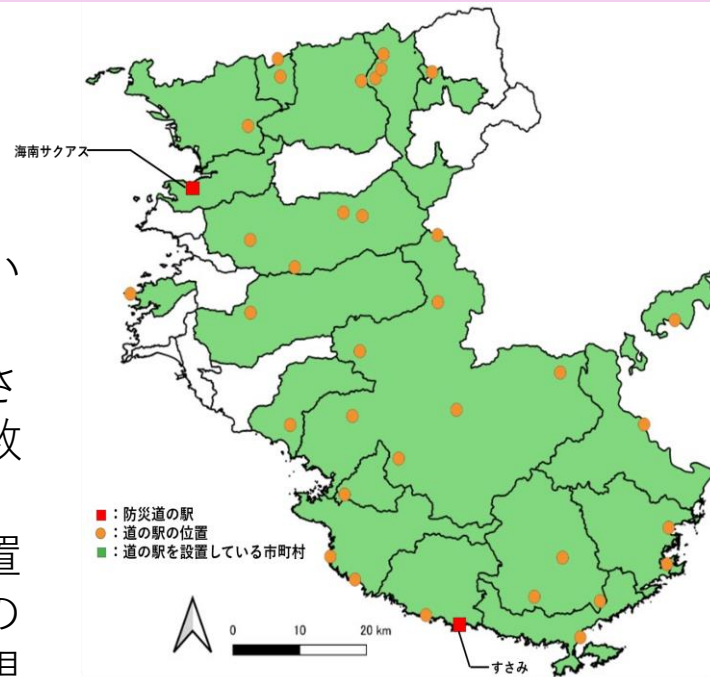


図1 和歌山県の道の駅の分布

表1 和歌山県の道の駅一覧

	道の駅	登録年月日	道の駅	登録年月日		道の駅	登録年月日	
第1ステージ	しみず	1993年4月	奥熊野古道ほんぐう	1999年8月	第2ステージ	くしもと橋杭岩	2013年3月	
	San Pin 中津	1993年4月	おくとろ	1999年8月		柿の郷くどやま	2013年10月	
	ふるさとセンター大塔	1994年3月	水の郷日高川 龍游	1999年8月		虫喰岩	2014年4月	
	龍神	1995年1月	明恵ふるさと館	2001年8月		くちくまの	2015年4月	
	イノブータンランド・すさみ	1995年4月	根来さくらの里	2002年8月		すさみ	2015年4月	
	志原海岸	1995年8月	あらぎの里	2008年8月		かつらぎ西	2015年4月	
	熊野古道中辺路	1996年4月	一枚岩	2009年3月		たいじ	2015年4月	
	しらまの里	1996年8月	白崎海洋公園	2009年7月		青洲の里	2015年11月	
	みなべうめ振興館	1997年4月	椿はなの湯	2010年3月		くしがきの里	2016年10月	
	紀州備長炭記念公園	1997年4月	なち	2010年8月		ねごろ歴史の丘	2017年4月	
	瀬峡街道熊野川	1998年4月	瀧之拜太郎	2010年8月		第3ステージ	四季の郷公園	2020年3月
	紀の川万葉の里	1999年8月	田辺市龍神ごまさんスカイタワー	2012年3月			海南サクアス	2023年2月

2. 研究方法

和歌山県内の道の駅の設置者である市町村を対象にアンケート調査を実施し、防災設備の整備状況や防災に対する意識について把握した。また、和歌山県に対しても調査を行い、防災道の駅の現状や県による支援体制について分析した。

3. 研究結果

(1) 道の駅の整備状況

和歌山県内の道の駅の約7割は第1ステージに整備された施設であり、単独型の施設が全体の約6割を占めていた。

(2) 防災道の駅の現状

和歌山県内の2駅の防災道の駅を中心に県全域を支援する体制が想定されていた。また、スタッフ訓練や防災情報の発信など、運用面での防災対策も行われていた。

(3) 防災機能の課題

災害時に業務継続が可能な道の駅は3駅のみであり、耐震化や自家発電設備の整備が課題であることが分かった。

さらに、指定管理者との連携強化の必要性も明らかとなった。

(4) 立地条件の特徴

「ICから5km圏内」かつ「重要物流道路沿い」の条件を満たす道の駅は全体の約3割であり、防災道の駅に指定された2駅はいずれもこの条件を満たしていた。



道の駅すさみ

<https://www.michinoeki-susami.com/>



海南サクアス



道の駅かづらぎ西